

◆VISION(実現したい未来)

校訓 『希望』 『自立』 『前進』

学校教育目標
自ら学ぶ力を高め 豊かな心とたくましい体を育み 目標に向かって働く力を身につけ 新しい時代の社会に
貢献する生徒を育てる

めざす学校像【子どもから学び、保護者と学び、地域と共に歩む学校】
・心がワクワクする学校(やりがい 生きがい 学びがい)
・地域と連携・深化する学校(地学協働の推進)
・世界一幸せにあふれる学校(SDGsの視点)

めざす職員像【和(協働)=笑+話+輪】
・【和】一人ひとりの強みと弱みを尊重する職員
・【笑】仕事は楽しく(笑顔)する職員
・【話】対話を大切に(対話)する職員
・【輪】チームで業務を推進する(チーム)職員

何ができるようになるか(学校教育の基本)
「生活自立」健康で安全に生活するための知識、技能、態度、習慣の育成
「社会自立」周囲の人々と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力の育成
「職業自立」礼儀正しく、責任を持って、根気強く働く力の育成

何が身についたか(学校評価を通じた学習指導の改善)
・学習活動の振り返りの充実(自己評価及び他者評価)
・指導記録、個別の指導計画の活用
・学校評価における自己評価(教職員、保護者、生徒アンケート)、
学校関係者評価

生徒の実態
・知的障害(軽度)
・発達障害を併せ持つ生徒が多い
・習得している知識や技能に偏りがある
・理解が断片的で、応用、汎化が難しい
・場にふさわしい言動をしたり、他者の意図や感情を推察したりすることが苦手
・変化やストレスに弱く、心身の不調を訴えたり自他を傷つけたりする行動に至ることがある

生徒の発達支援
個別の教育支援計画
面談(コーチング+)
キャリア教育

めざす生徒像【卒業後一人でも多く納税者にする】
・健康で安全に生活することができる生徒
・礼儀正しく、責任を持って、根気強く働くことができる生徒(語先後礼の定着)
(卒業後3年間:定着率100%を目指す)
・地域や職場の人々との関係を良好にするコミュニケーションをとることができる生徒
・多様な見方や考え方を尊重できる生徒
・情報社会に適切に参画することができる生徒

何を学ぶか(教育課程の編成)
・体力づくり、作業学習を中核とし、教科等を合わせた指導、教科別の指導、領域別の指導、総合的な探究の時間を配当
・自立活動及び道徳は全学習場面を通して指導
・3年間を見通した系統性のある指導計画
・各教科等の関連を持たせた横断的な視点の指導計画

どのように学ぶか(教育課程の実施)
・主体的・対話的で深い学びの実現
・「分かり高める」をキーワードとした、授業の質の向上を目指す取り組み
・実体験や本物に触れる経験を通じた深い学び、学習の汎化
・学習集団の工夫
・寄宿舎における卒業後の生活の場を意識した生活環境

実施するために何が必要か(指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働)
・教務、舎務、保護者、関係機関等との連携・協働(対話と行動⇒共通言語・解釈)
・CSを意識した地域との接点をもった学習、交流活動、地域の資源を活用した体験的、問題解決的な学習活動の積極的な導入
・ICTを活用した授業改善及び研修(DC:デジタルシティズンシップ DX:デジタルトランスフォーメーション)
・外部からの評価を取り入れた教育課程の編成

◆SLOGAN(合言葉)

伊達ブランドの深化
見えて 聴こえて 風通しのいい
網戸張りの学校経営をめざす
全学科 藍ブランドの定着
SDGsの視点

◆MISSION(日々果たすべき使命)

『双方向性のある対話と行動を意識し、教職員一人ひとりの強みと弱みを尊重し、連動して課題解決を図る』

【命】
命、防災、防犯の教育
・多様性、人権尊重の徹底
・自然災害、防犯等の教育の充実
・SNSを含めた情報教育
・食物アレルギー等情報共有

【環境】
安全・安心な人的、物的空間
・教務、舎務一体の職業準備性
・コンプライアンスの意識
・学習環境の整理整頓清掃
・地域を含めた教場の拡大

【夢】
キャリア教育の推進
・一般就労80%を目標
・進路指導と生徒指導の連携
・地域保幼小中高とC.O.の連携
・職業学科のプライド深化

【挑戦】
人間力の向上
・教務と研究の連携
・ICTの研修、整備
・情報発信のスピード化
・人材育成及びOJTの強化

サーバントリーダーシップで教職員をバックアップする管理職

◆VALUE(考動指針)

- 1 私たちは、全ての命を最優先にした行動をします。(安全第一)
- 2 私たちは、生徒の未来のために、長期の視点で学習を展開します。(学習保障)
- 3 私たちは、家族を思い、社会に胸を張れる仕事をします。(働き方改革)

(網戸張りの学校経営とは) ガラス張りのように「見える(透明性)」のある学校経営ではなく、教職員一人ひとりのアンテナを高く保ち、風(外部からの意見や情報等)を瞬時にキャッチし、それに対して迅速に対応する備えが必要である。そのためには、学校のスタンスを明確にして情報を行き来させながら教職員一人ひとりが学校経営に参画し、組織として風をコントロールして日々の教育実践を積み上げていく『瞬発力』が求められる。学校は『生きている』人・もの・金そして情報発信や情報収集で良くも悪くもなる。だからこそ教職員一人ひとりが双方向性のある『対話と行動』を意識して連動し、見えて 聴こえて 風通しのいい『網戸張りの学校経営』をめざすことが、これからの次代に求められる学校のスタンダードと私は確信している。